

北海道開発分科会 第6回計画部会 議事概要

1. 日 時：平成19年12月10日（月）14:00～15:20
2. 場 所：中央合同庁舎2号館低層棟共用会議室2A・2B
3. 出席者：[委員] 南山部会長、家田委員、加藤委員、小磯委員、坂本委員、櫻井委員、佐藤委員、生源寺委員、田村委員、丹保委員、嵐田委員代理（北海道東京事務所 立川所長）
[北海道局] 品川北海道局長、奥平審議官、井置審議官、参事官、総務課長、予算課長、地政課長、水政課長、港政課長、農林水産課長
他
[北海道開発局] 北海道開発局開発監理部次長

4. 議事次第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - 1) 新たな計画に関する部会報告について
 - 2) その他
- (3) 閉会

5. 議事及び主な発言内容

1) 新たな計画に関する部会報告について

資料2に基づき起草委員から説明を行った後、議論が行われた。

○ 起草委員からの説明

- ・ 北海道新幹線の札幌延伸をライフワークとして取り組んできた者として、札幌延伸の記述を削除した案を提案し、部会での審議をお願いすることは本意とするところではない。札幌延伸を断固支持し、早急に実現すべきであることを明確にするため、本計画部会及び起草委員の辞任を申し入れる。北海道新幹線は、これからの北海道を飛躍的に発展させる交通システムである。北海道知事を始めとし、経済界、沿線市町村、そして多くの道民が札幌延伸を実現するため汗をかいている時に、それを削除するべきではない。（佐藤委員）

→続いて、田村委員から報告。

- ・ 先ほどの佐藤委員からのお話は、部会長預かりとさせていただきたく、御了解いただきたい。（南山部会長）

○ 資料2のうち、第1章、第2章について

- ・ 付記の「PDCAサイクル」や「北方領土問題」については、第3章計画推進の基本方針に書く方がいいのではないか。
- ・ 「北海道開発の基本的意義は、…その時々々の国の課題の解決に貢献ところにある。」とあるが、ショートタームの課題について、ショートタームで解決してきたような印象なので、「その時々」は削除するべき。また、北海道の発展という視点が希薄ではないか。

- ・ 道民にとって分かりやすいように、キャッチフレーズがあるといいのではないか。現在の新幹線の記述には、違和感がある。与党で検討が進められているところであるため、表現は難しいところであると思うが、具体名が入ると道民の取組に弾みがつく。
- ・ (第1章第2節について) 今までの北海道開発政策を振り返る文言があるといいのではないか。苫小牧は50年、60年を経て、基盤整備による芽がでてきた。こうしたところにも踏み込むと、メッセージとして伝わりやすく、北海道開発の意義が高まる。
- ・ 案文は、初期の頃より良くなっているが、記述が道路に偏重しているのは気にかかる。北海道の特性にあった社会資本整備が必要で、空港、港湾、新幹線の整備があり、その次に道路が来るのではないか。
- ・ (第1章第2節について) 北海道には日本を先導してきた歴史がある。少子高齢化が進む中、食料自給率が200%を超えている北海道だけが、日本の中で唯一近代の次に行けると思っている。もう少し骨太な言葉を使い、北海道が日本の先頭にたって歩いていくという感じを出せるといい。
道内のネットワークがしっかりしていないと新幹線が通っても意味がない。その点を書き込むことが必要。

○ 資料2のうち、第3章、第4章について

- ・ 新幹線については、10月31日の第5回計画部会での書きぶりに、P21第3段落の3行を追加した。起草委員会は7回行っており、その中で色々なバージョンについて議論を行った。そこでの議論の趣旨・意図を活かしながら、今回の表現をお示しさせていただいている。本日は、色々ご議論をいただき、意見として承りたいと考えている。(事務局)
- ・ 観光を産業として位置づけることが重要。北海道の成長には、外から稼いで内部で循環させることが大切であり、外からお金が入ってくる観光について戦略が必要。現在、観光についてはまちづくり的な視点で書かれているので、産業として明確に打ち出すべき。
- ・ 新幹線については、H16年の政府・与党申合わせ以降も議論は進んでおり、記述が不適切。地方重視、高速交通体系の整備、環境への寄与といった観点から、新幹線について所要の整備を図ることを明記すべき。
また、新幹線だけでなく、空港、港湾、道路の整備によりネットワークを形成し、地域の発展に結びつけることが必要。経団連と自動車産業の誘致について話をしたが、交通基盤がしっかり整備されていないと進出のメリットが無いという話であった。
第4章第4節(1)(国際競争力を高めるための物流ネットワーク機能の強化)の部分では、鉄道についても記述があるといい。
- ・ 新幹線については、11月28日の起草委員会の時点で抜本的に変わり、これでもいいのか議論をした。現時点では、事務局としても成案ではなく、佐藤委員が納得

したものでもないことを前提としてここに出している。(田村委員)

- ・ 「また、新幹線と一体となった…」という書き方は、新幹線の整備ありきにとられる。道内で鉄道、道路、通信等のネットワークが整備された後、そこに要となる新幹線が入るという順序であるべき。新幹線を中心に考えすぎると、新幹線を整備してほしいとしか見えなくなり、誤解を招く。
- ・ 道路については、必要なところは工夫を凝らして整備を進めていくという記述が必要ではないか。
観光については、良いところだけではなく、反省すべき点も記述すべき。
食の安全について、独立して項を設けるのは賛成。しかし、今の記述では誰が行うのか不明確。北海道でこそ取組を行っていく、という記述にすることが大事。
6つの広域的生活圈については、区域分けに必ずしも説得力があるわけではないが、この書き方ではア prioriに認めているようにみえる。将来の広域圏については、従来の6つの圏域を基本としつつも、具体的な検討を深めていく、というほうが、現実味のある書き方になるのではないか。
新幹線の整備は必要であるが、具体的にいつどこまで新幹線を整備するのか、部会の中でも議論していない。札幌延伸についての地元の期待は踏まえる必要があるが、この計画に具体的な区間の整備方針まで記述する必要はないのではないか。
- ・ 現在、北海道では、基礎的自治体、中間的自治体の在り方について議論されている。広域的な生活圈については、そのような議論との関係や、6つとした意味、今までの計画との区別などをしっかりして記述すべき。
港湾については、北海道の発展の基盤として、国際競争力に加え、国内物流ネットワークとしての機能をどう位置づけるかが重要。
- ・ 北海道が日本の為になにができるかを考えると、一番は食料自給率の維持。食料供給力の強化に関する部分について、是非強調してもらいたい。
- ・ 委員の皆様から、大変貴重な御意見を頂いた。部会で取りまとめる案文としては、了承とし、必要な修正及び北海道開発分科会への報告については、私に御一任いただきたい。(南山部会長)

2) その他について

資料3をもとに、事務局から今後のスケジュールについて説明。

以 上
(速報のため、事後修正の可能性がります。)